Business now（ビジネス） scene#28

㈱ヨネヤマシール印刷（新潟県三条市）

既存設備と一体運用　半歩先の仕事も開拓

エプソン「SurePress」導入

プロファイルで仕上がり統一　カラー可変印刷などで新境地

繰り返し貼り剥がしできる多層ラベル、キャンペーンのラベルから事務局受託までのトータル提案など、ユニークな製品・サービスを幅広く展開している㈱ヨネヤマシール印刷（新潟県三条市西大崎、☎0256・38・0011）。レタープレスと水なしオフセットの印刷設備を主力とする一方、デジタルは単色のインクジェット（IJ）ユニットなどを活用してきたが、さらに昨年2月、セイコーエプソンのカラーIJ機「SurePress L-4033A」を導入した。運用の現状や新設備を選んだ経緯、事業全体に与えた影響などについて、米山智哉社長に聞いた。（相馬）

米山　智哉 社長

――SurePressの導入から1年半。デジタルならではの可変印刷で新たな仕事を獲得しているそうですね

「当社ではすでに7年ほど前から、単色のIJユニットを凸版間欠機に搭載して、キャンペーンシールに印字するシリアル番号などを手がけてきました。それらの経験も踏まえて、フルカラーの可変印刷は将来的に伸びる分野だとみていました。結果は予測通りで、現在SurePressが担当しているラベル印刷のうち、可変データが入る仕事の割合は3割に達しています」

「最近も、1枚ごとに異なるQRコードがカラーで入るステッカーを20万枚、という依頼がありました。最終的には、デザインよりも読み取りの確実性を優先させたいという依頼者側の意向があり、コード部分はモノクロ印刷することになったのですが、もし当社が単色の可変しかできない設備状況だったならば、そもそも声がかからなかった仕事だと思います」

――それでは、SurePressの導入を決めた理由も、やはりカラーによる可変対応が主眼だったのですか

「いえ、そうではありません。今回のデジタル機導入にあたって、私がまず求めた役割は、生産機であると同時にオフセット印刷のうほかありませんでした。そのたびに仕事の流れが止まってしまうという状況を何とか解消したかったのです」

――水なしオフセットの仕上がりをデジタルで再現できることが欠かせなかったのですね

「高画質を訴求していたSurePressの印刷サンプルを確認したところ、やはりオフに匹敵するものだと感じました。さらに説明を聞いたところ、専用のカラープロファイルを作成すれば、水なしオフの特徴をかなり近いところまで再現できることも分かりました」

「私は各種のデジタル印刷技術にさまざまな期待を抱いているのですが、今回は当社が直面していた色校色校正ができるということでした」

「というのも当社は、高精細で有害な廃液を出さないといった利点から、比較的珍しい水なしタイプのオフセット印刷機を設備しています。校正印刷の業者は水なし印刷に対応しておらず、しかも通常の平台校正では、水なしの仕上がりを予測できません。このため、従来は色校が必要になると量産の合間に本機校正を行うなどして、かかる手間と時間は比べものにならないでしょう」

――CMYKとグリーン・オレンジを用いるSurePressの水性顔料インクについては、どう評価しますか

「耐候性が高く、屋外用途にも使えるのは便利です。何より4色プラス2色の効果は絶大で、水なしオフセット4色の色域を完全に収めており、さらに広いエリアまでをカバーできます。透明感や深みを持たせた色の表現は抜群で、特に上質紙や和紙といった基材との相性がよいと感じます」

「当社の地元である新潟では、生産量の少ない酒や和菓子に単色オフセット印刷の和紙ラベルが多く使われているのですが、SurePressで印刷したカラーのサンプルを持参し、新規顧客の掘り起こしにつながったケースもありました」

――備えている特性を、存分に生かしているという印象です

「実は『存分に』とはいえない面もあります。先ほどのカラープロファイルと関連しますが、当社の運用では、水なしオフ4色などよりも色域の広いSurePressが、狭い方に歩み寄る形で仕上がりを統一しています。従ってSurePressの側では、本来持っている表現力を常に100%使い切れるとは限らないのです」

「ただ、それではもったいないので、SurePressで新たに受注した仕事のうち、リピートでロットが増える可能性の少ないものについては制限を外し、のびのびと力を発揮してもらっています」

――現在、SurePressによる生産工程には何人が関わっているのですか

「印刷機と後加工機を直接操作しているのは工場長1人です。色を合わせるためにはデータ加工のノウハウだけでなく、オフやレタープレスの知識も要求されるため、どのオペレーターでも担当できるという状態までには至っていません。このほか、カラープロファイル作成などデータ関連の担当者が、製版とデザイン部門に1人ずついます」

――デジタル化を進める上で印刷オペレーターに新たな知識やスキルが求められる点をどうクリアするか、悩んでいる企業も多いと聞きます

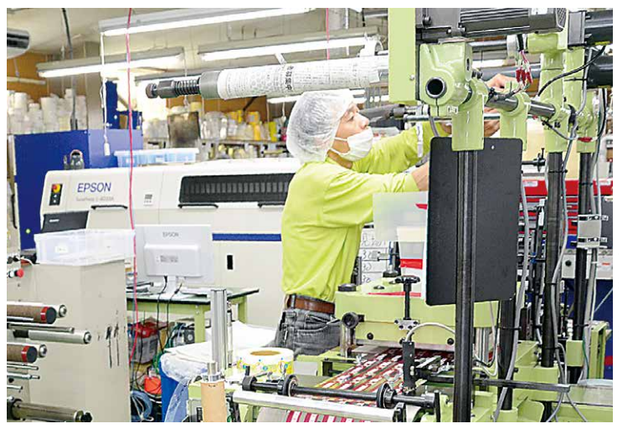
「印刷設備のデジタル化が進むにつれて、特色のインキを練る作業は『アドビイラストレーター』上でデータを調整する作業に置き換えられていきます。SurePressを導入したことで確信しましたが、これからはコンベンショナル機のオペレーターであっても、イラストレーターが使いこなせてはなりません」

――最後に、導入の総括と今後の展望を

「校正機としての役割や、既存設備からの移行といった当初の目的を達成できただけでなく、小ロットやまとまった量のカラー可変で新たな仕事も開拓できました。設備投資の効果は十分あったと満足しています。SurePressは、高い印刷品質の一方で印刷速度に構造上の限界があることは最初から理解しており、ロットの大きさを追わない用途で長く活用できると思います」

「どんな印刷機にもターゲットや得手不得手がありますから、デジタルラベル印刷に期待されるすべての用途に応えられるモデルはすぐには現れないと思います。SurePressのほかに、高い印刷品質で毎分30㍍ぐらい出せるデジタル機がもしあれば、大ロット生産もデジタル化できるはず。今後の技術開発に期待しています」

「現状ではまず『当社はデジタルでこんなことができます』と、お客さまのもとへ飛び込んでいくことが大切。特に販促物やパッケージを手がけるデザイナーの方々は豊富なアイデアを温めていますから、それらに今すぐ応えられなくてもニーズとして知っておき、常に半歩先を見ておきたいと考えています」



デジタル印刷後の抜き加工は平抜きゼンマイ刃で行う

データ加工などのノウハウが新設備の運用にも生かされる

カラーの可変印刷は、新設備が担う仕事の３割を占めている

事業領域の拡大に貢献している「SurePress L-4033A」

実績、続々。
成果、着々。

小ロット対応、短納期、高画質が、業績に直結。
インクジェットデジタルラベル印刷機「SurePress」
さらに、市場の声に応えるホワイトインク搭載モデル誕生。

「小ロットの受注でも利益が出せる！」「短納期の要求にも柔軟に対応できる！」「商品のシズル感まで表現できる！」デジタルだからこその優れた特長と、エプソンならではの高画質技術で、発売以来ラベル業界の高い支持を受け、多彩な印刷現場で活用されているデジタル印刷機「SurePress L-4033A/AW」。これからも、その性能と使いやすさ、経済性で、ラベル印刷のさまざまな課題を解決していきます。

実機を日野デモルーム（東京）で※。その実力をお試しください。

隠ぺい性の高いホワイトインク搭載のSurePress L-4033AWをご用意しており、実際の印刷データ・基材などをお持ちいただき、テスト印刷・後加工の検証が可能です。
※：日野デモルームは完全予約制です。

Inkjet Digital Label Press
SurePress
L-4033A/AW
シュアプレスのホームページ
http://surepress.jp

詳細についてはお問い合せください。
03-5321-9733
【受付時間】9:00～17:30 月～金曜日（祝日・弊社指定休日を除く）
エプソン販売株式会社　シュアプレス専用ダイヤルまで
＊この広告に記載の仕様、デザインは技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

エプソン販売 株式会社　セイコーエプソン 株式会社